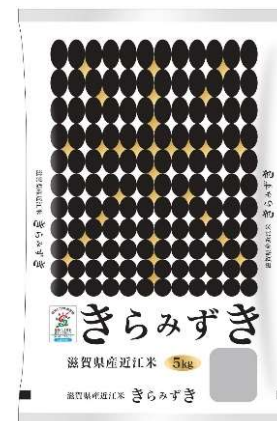


令和6年(2024年)2月10日

於：五個荘コミュニティセンター



令和5年度水田農業振興フォーラム

近江米新品種「きらみずき」の 推進について

滋賀県農政水産部
みらいの農業振興課

特色のある近江米



木・里・湖に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム
Biwa Lake to Land Integrated System

■ 琵琶湖システム

令和4年7月、国連食糧農業機関から、琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業が世界農業遺産に認定されました。

琵琶湖の水質や生態系保全のために、多くの農業者の皆様により「環境こだわり農業」などに取り組んでいただき、農地は多様な生き物を育む場にもなっています。

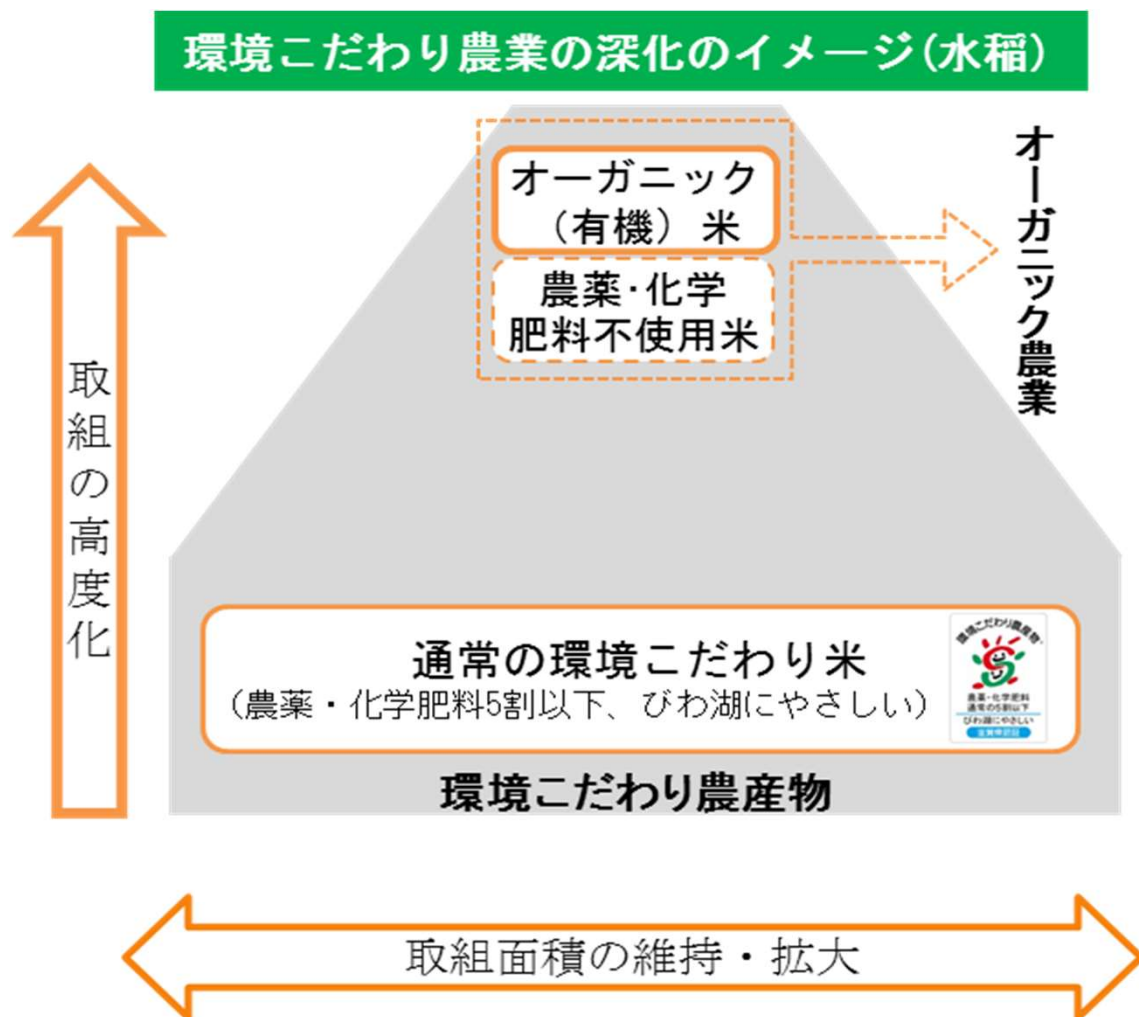


■ 魚のゆりかご水田

水路に堰（魚道）を設置し、琵琶湖と水路との間で水位差が生じた水田に魚が遡上する水田を「魚のゆりかご水田」といい、このほ場で生産された米を「魚のゆりかご水田米」といいます。



環境こだわり農業のさらなる推進



- 環境こだわり農業の取組面積の維持・拡大を図りつつ、農薬・化学肥料を使用しないオーガニック農業などの高度な取組を推進！
- 琵琶湖を抱える本県ならではの象徴的な取組として全国に発信し、「環境こだわり農業」全体のブランド力を向上！
- 琵琶湖と共生する「環境こだわり農業」を本県農業のスタンダードに！

生産者が環境保全のために努力していることを「美味しさ」とともに発信し、有利販売・販路拡大へ

「水田土づくりマニュアル」の活用

■ 温暖化や輪作に伴い、
水田の地力は低下傾向

■ 効果的な土づくりの実践

- 簡易分析法による地力実態の把握
- 有機物の活用による地力向上
収穫残さは燃やさずにすき込む
緑肥や家畜ふん堆肥の利用

■ 肥料コスト低減に向けた取組

- ヘアリーベッチを活用した水稻栽培
- 土壌診断に基づく施肥量の低減
- アルカリ資材の省力的施用やリン酸の適正施用

詳細は



土の力を最大限活かす！ 「水田土づくりマニュアル」

温暖化の進行や田畑輪換に伴い、水田の地力は低下傾向にあります。

「水田土づくりマニュアル」を参考に、持続的で生産性の高い農業に努めると共に、肥料コストの低減に向けた取組につなげていきましょう。

地力向上を図るためには有機物を活用した土づくりが有効です！

- 作物の安定生産や収量・品質向上
- 地球温暖化防止（土壌への炭素貯留）

効果的な土づくりの実践に向けて

- 簡易分析法による地力実態の把握
- 有機物の活用による地力向上
収穫残さは燃やさずにすき込む
緑肥や家畜ふん堆肥の利用

肥料コストの低減に向けた取組

- ヘアリーベッチを活用した水稻栽培
- アルカリ資材の省力的施用やリン酸の適正施用

詳細については

滋賀県農業技術振興センター環境研究部
(TEL.0748-46-2500)に
お問い合わせください。

可給態窒素量（地力の指標：乾土 100g 当）

■ A：20mgN 以上 ■ B1：14～20mgN 未満
■ B2：8～14mgN 未満 ■ C：8mgN 未満

作付体系
△：水稻単作
○：田畑輪換

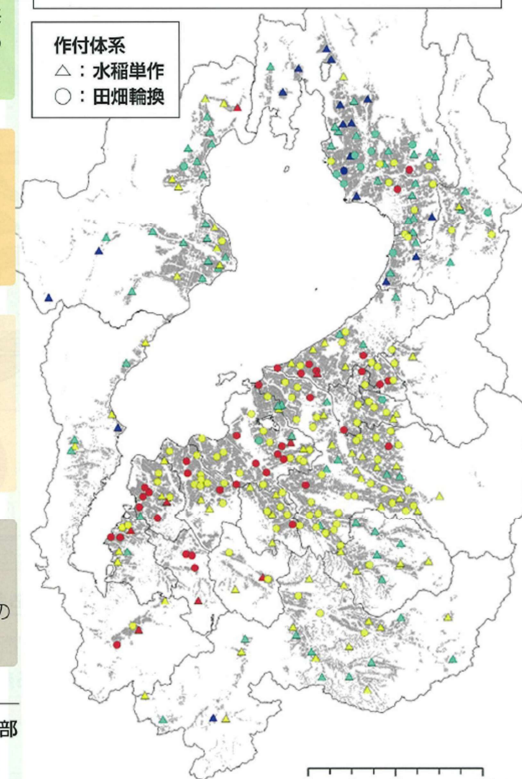


図 滋賀県における最新の地力マップ

近江米振興協会

詳細は 検索



「みずかがみ」について

■ 高い1等米比率

年産	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
みずかがみ	87.9	58.1	87.7	91.6	89.5	90.9	76.6	86.2	94.6	88.9	86.8
全うるち	55.9	50.5	74.0	75.5	66.5	66.2	54.5	67.5	78.7	64.3	55.3

農林水産省公表値。R5年産は令和5年11月30日現在の速報値。

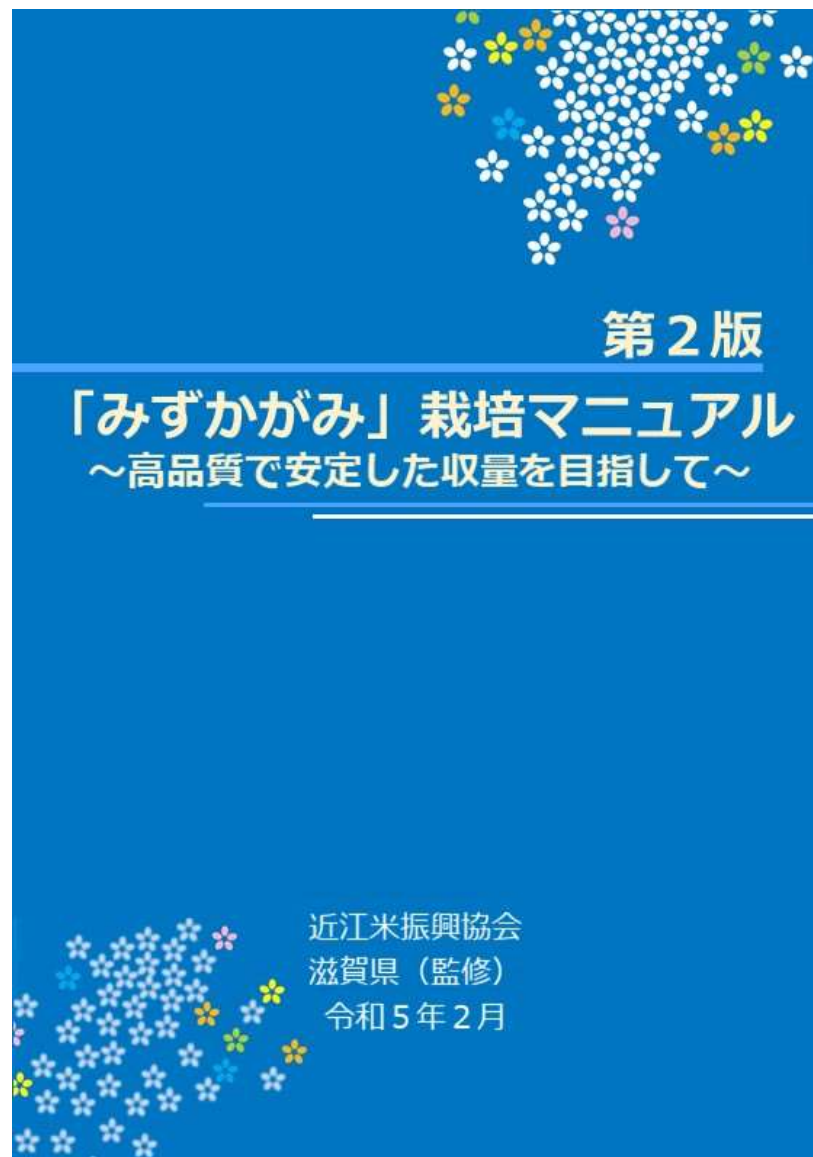
■ 「特A」評価の獲得

年産	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
ランク	特A (参考品種)	A	特A	特A	特A	A	特A	A	A	A

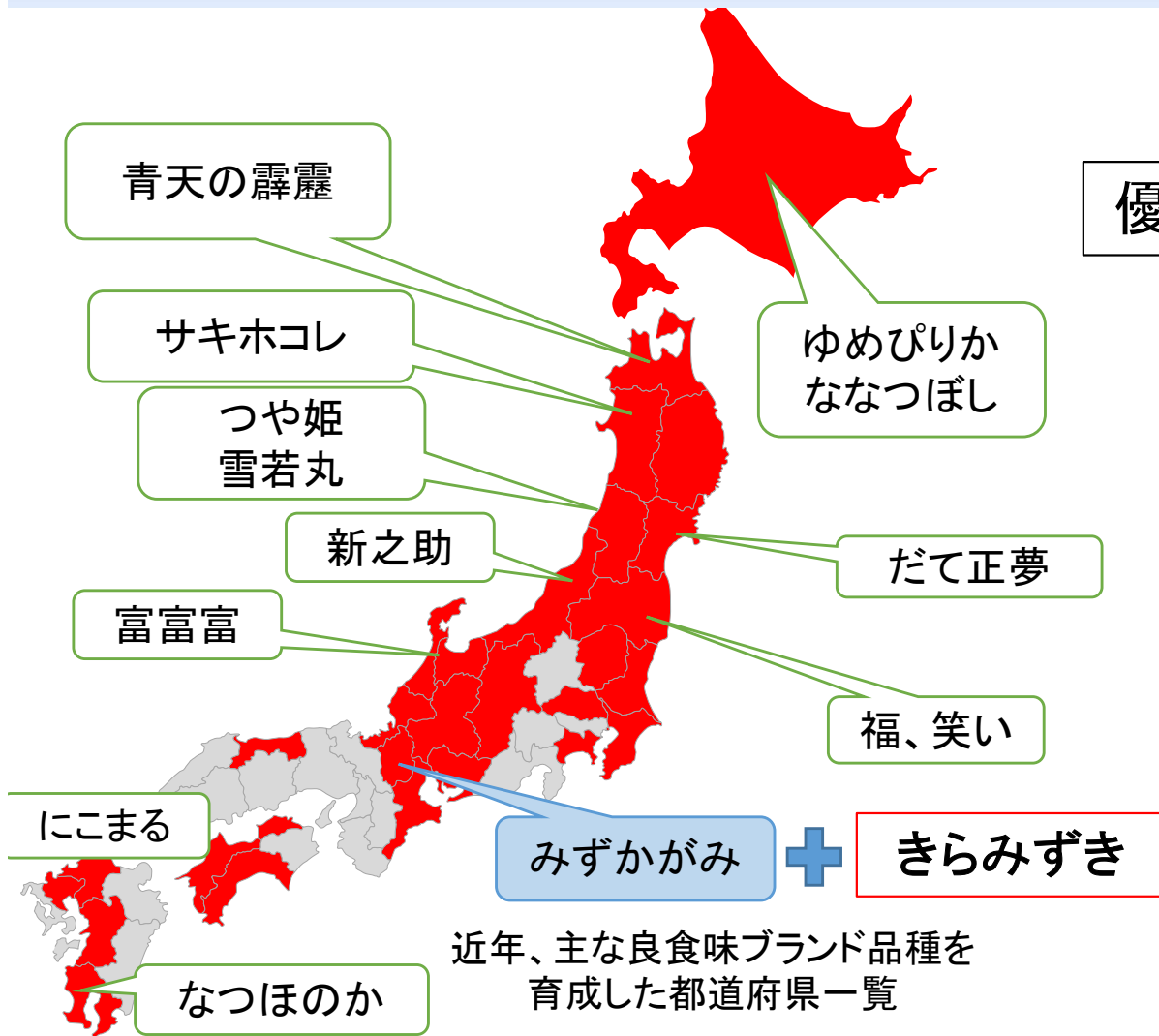
表中の参考品種とは、食味ランキングの対象ではないが、今後生産を奨励したい品種や、話題性のある品種が選定される。

■ 信頼される産地づくりに向けて

平成25年産から「みずかがみ」の栽培が始まり、作付面積が増加することに伴い、食味や品質のバラつきが指摘されるようになりました。県内外において消費されている「みずかがみ」について、県内のどこで作られても、美味しさを実感してもらえる品質や食味を確保することが産地としての責任となります。今後も消費者の支持や信頼を得るよう、良食味を心がけた栽培に取り組みしましょう。



全国の主な高温耐性品種



優れた食味・収量性・玄米外観品質



優れた耐倒伏性・高温登熟性



環境こだわり栽培基準よりさらにこだわった栽培



特色ある近江米

令和5年から「きらみずき」の栽培開始



こだわる人が選ぶ「おいしさ」と「やさしさ」

滋賀県産近江米

きらみずき

環境こだわり米



きらみずき

滋賀県産近江米

大粒でしっかりとした食感、
すっきりとした瑞々しい甘さが強みで、
噛むほどに甘さが広がります。

米にこだわりがあり、
食べることで健康や環境への配慮を
意識される方へお届けします。



「きらみずき」の目指すもの（新たな近江米の価値）

■推進コンセプト

こだわる人が選ぶ「おいしさ」と「やさしさ」

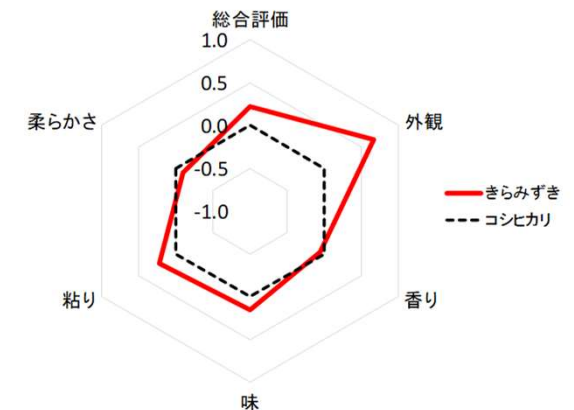
【生産】高度な技術を持って、**オーガニック**をはじめ、**化学合成農薬**や**化学肥料**を可能な限り削減した栽培に限定



【消費】“おいしさ”とともに、温暖化防止・生物多様性の保全など一歩進んだ取組の**価値**に共感し「きらみずき」を支持、購入

■「おいしさ」

- ・ 大粒でしっかりとした食感
- ・ すっきりとしたみずみずしい甘さ
- ・ 噛むほどに広がる甘さ

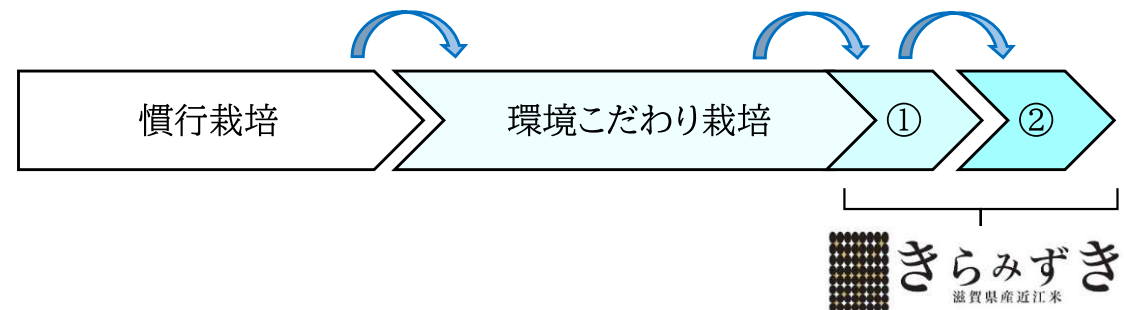


「きらみずき」の目指すもの（新たな近江米の価値）

■「環境への配慮」

環境こだわり農産物の栽培基準より、さらに化学肥料や化学合成農薬を削減した栽培

- ①化学肥料(窒素成分)や殺虫・殺菌剤(化学合成農薬)を使用しない栽培
- ②オーガニック栽培



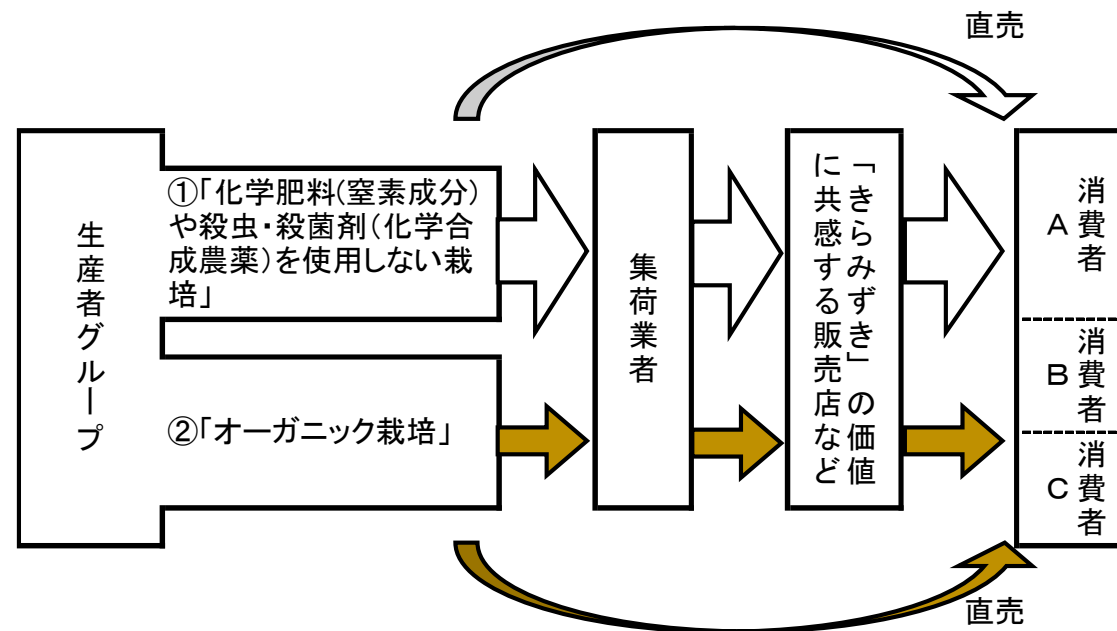
■オーガニック栽培に取り組むきっかけ

地域の特徴や経営状況に応じて、化学肥料や殺虫・殺菌剤を使用しない栽培を実践・定着させることで、オーガニック栽培や無農薬・無化学肥料栽培などに取り組むきっかけとする。

「きらみずき」の目指すもの（新たな近江米の価値）

■多様な販売場面とブランド価値の共通化

「きらみずき」の価値を**多くの消費者に共感**いただくため、**様々な販売場面**において、それぞれの関係者が「近江米きらみずき」の**共通コンセプト**を用いた**PR**を行う。



「きらみずき」の目指すもの（新たな近江米の価値）

■「きらみずき」の役割(おさらい)

- 「おいしい」「高温に強い」「倒れにくい」
- 「オーガニック栽培」や「化学肥料や殺虫・殺菌剤を使用しない栽培」に限定
- 「環境こだわり農業」約20年の経験と実績を背景に、「琵琶湖の環境保全」「地球温暖化防止」「生物多様性の保全」に貢献
- 本県におけるオーガニック農業拡大のための一つの柱に位置づけ・「コシヒカリを超える価値」を目指す

「きらみずき」のブランド化により
オーガニックといえは滋賀県」を目指す

令和5年産「きらみずき」の生産状況（実証ほ）

表) 令和5年産の現地実証ほの収量・品質等について

地域名	移植日 (月/日)	幼穂形成期 (月/日)	出穂期 (月/日)	単収 (kg/10a)	整粒歩合 (%)	食味値	タンパク (%)
野洲市	5/4	7/7	8/6	432	54.8	87.0	5.6
甲賀市	5/4	7/21	8/12	479	81.2	84.8	5.7
竜王町	5/10	7/20	8/11	429	72.9	74.3	6.8
彦根市	5/20	7/25	8/14	478	82.0	81.9	5.9
長浜市	5/11	7/20	8/13	515	72.4	84.1	5.7
高島市	6/12	8/2	8/20	279	82.9	85.1	5.8

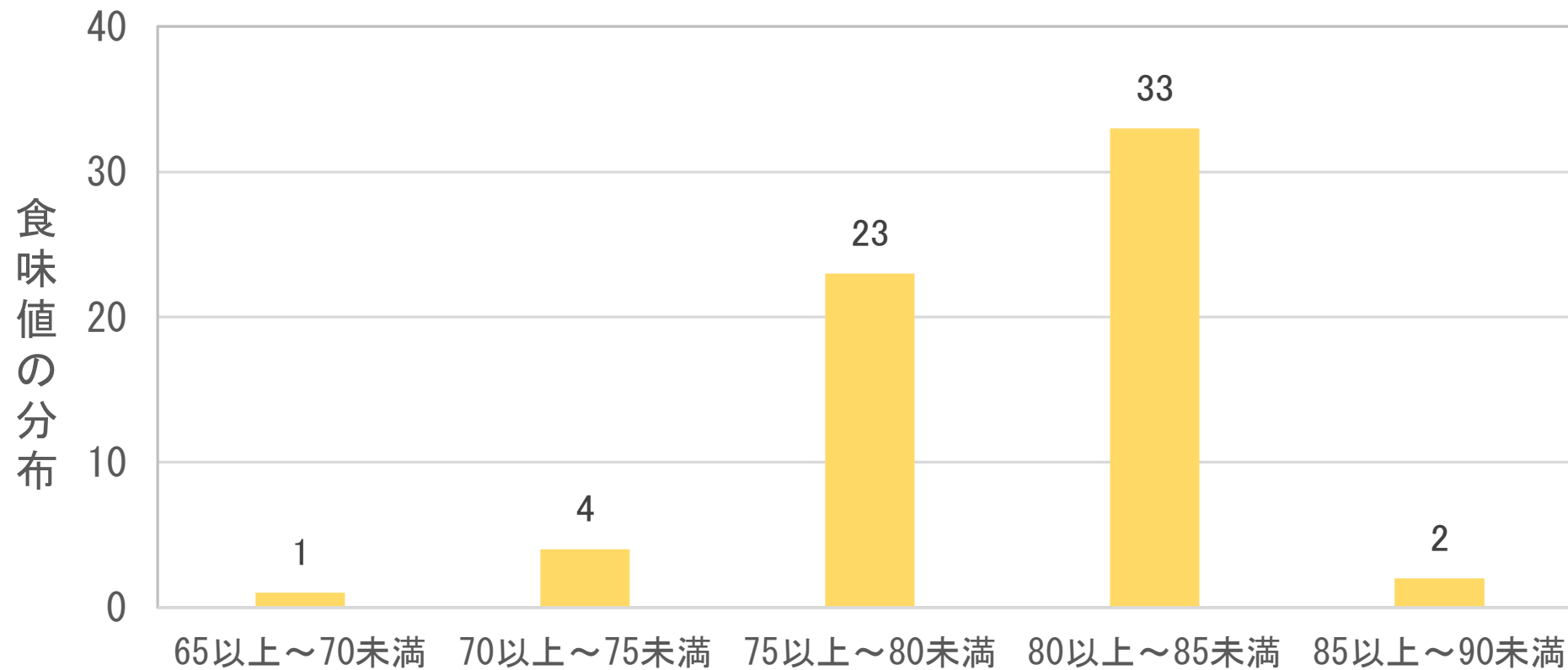
各実証ほにおける栽培方法は、高島市のみ「②オーガニック栽培」、それ以外の地域では「①化学肥料（窒素成分）や殺虫・殺菌剤（化学合成農薬）を使用しない栽培」。

単収・品質は生産者やほ場によるバラつきが大きい



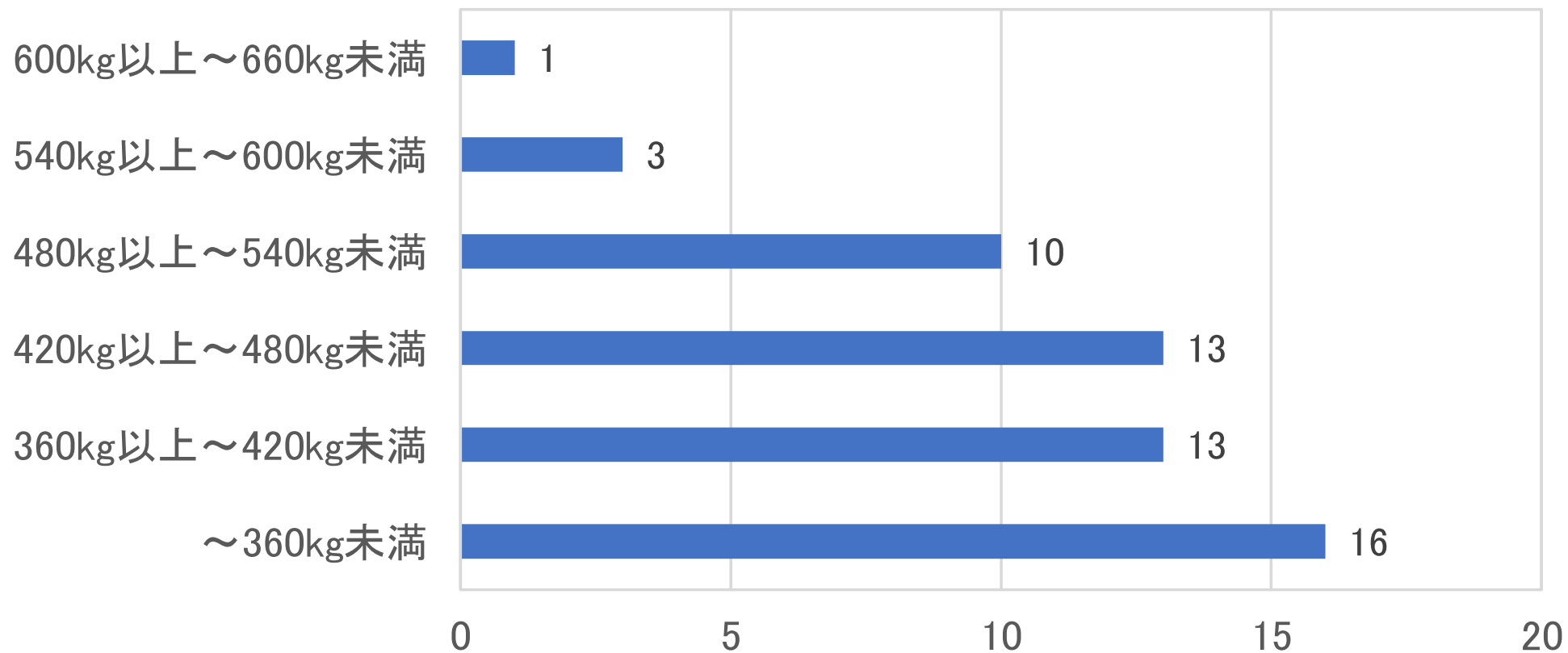
令和6年産に向けた栽培技術の検討

令和5年産「きらみずき」の生産状況（食味値）



令和5年産「きらみずき」の生産状況（単収）

単収のばらつき



令和5年産の結果から見えてきた課題

■ 安定した収量を確保するための栽培上の注意点

- 有機質肥料や堆肥、緑肥等を活用するため、化学肥料を使用する一般的な栽培に比べて、有機物の分解による還元障害が生じやすい。
- すき込み時期や、水管理に留意する。



参考)
「みずかがみ」移植約2週間後
緑肥の鋤き込みによる還元障害



「きらみずき」移植約1カ月後
基肥: 鶏糞ペレットと有機アグレット
茎数: 176本/m²

令和5年産の結果から見えてきた課題

殺虫・殺菌剤を使用しない栽培のため、過去にいもち病やウンカ類などの病害虫が多発した地域・ほ場での栽培は避け、耕種的防除に取り組む

①葉いもち・穂いもち

- ・ 葉いもちは管内の約半数の「きらみずき」栽培ほ場で発生し、葉いもちの発生が多かった1地点では、穂いもちの発生も目立った。

【耕種的防除】補植用余剰苗の除去、稲わらの鋤き込み、多肥栽培を避ける、穂肥の分施 等



②イネ縞葉枯病

- ・ ヒメトビウンカが媒介するウイルス病。管内の多くのほ場で少発生。穂の出すくみや、不稔などの症状が見られた。

【耕種的防除】発生ほ場では収穫後早期に刈り株をすき込む



③ニカメイチュウ

- ・ 多くのほ場で少発生。一部のほ場では発生が多かった。

【耕種的防除】発生ほ場では早期に稲わらをすき込む、過繁茂を避ける、

令和5年産の結果から見えてきた課題

- 穂肥時期の目安は、出穂期の約30日前。
- 穂肥時期までに葉色が極端に低下する場合があるため、初期生育が旺盛になりすぎないように基肥の過剰施肥を避けるとともに、6月下旬～7月上旬の葉色を見て、追肥を施用する。

令和4年産「きらみずき」実証ほの事例

- 初期生育旺盛
- 7/15時点 茎数567本/m²、葉色38.5 (SPAD値)
- 穂肥施用2週間後になっても葉色が回復せず、再度追肥を施用



令和5年産

- 6月末にほ場巡回を実施し、葉色が淡かったほ場では、追肥の施用や、穂肥の施用を早めるなど対応
- 極端に葉色が低下したほ場はなし

令和6年産に向けた対策のポイント

対策	概要
栄養状態維持の 対策	<ul style="list-style-type: none">■ 「初期生育を確保しやすい湖辺地帯」や「5月上旬までの早い時期の移植」では初期生育が旺盛になりやすい傾向があり、生育途中で葉色が低下しやすいことから、追肥を必ず施用する■ また、遅植えや細植えも検討する
	<ul style="list-style-type: none">■ 夏季の高温傾向が進んでいることから、穂肥は減肥せず規定量を施用することが望ましく、生育状況に応じて分施や施用時期を遅らせる対応を行う
	<ul style="list-style-type: none">■ 単収が確保できているほ場は牛ふん堆肥を連用している事例が多いことから、堆肥施用や深耕等の土づくりを継続して進める

令和6年産に向けた対策のポイント

対策	概要
病害対策	<ul style="list-style-type: none">■ いもち病については、温湯消毒等で必ず種子消毒を行い、ケイ酸質肥料の施用、余剰苗の除去、畦畔除草により風通しを良くするなど発病やまん延しにくい環境をつくる
	<ul style="list-style-type: none">■ 縞葉枯病については、次作の病原ウイルスの伝染源になるため、前作水稻の収穫後は早期に耕耘し、畦畔等ほ場周辺の雑草を刈り取る
	<ul style="list-style-type: none">■ ごま葉枯病については、生育後期に栄養凋落が起こると発生が助長されることから、堆肥施用や深耕等の土づくりや、イネの初期生育が旺盛になりすぎず、登熟後期まで活力が維持されるような栽培管理や施肥管理を実践する

令和6年産に向けた対策のポイント

対策	概要
還元障害の対策	<ul style="list-style-type: none">■ 有機質肥料や堆肥、緑肥等を活用することから、化学肥料を使用する一般的な栽培に比べて、有機物の分解による還元障害が生じやすい。特に、排水性が悪い湿田や粘土質の土壌では、収穫後の稲わらや牛ふん堆肥等は早めに鋤き込む、分けつ期は浅水管理を行う、還元障害がみられた場合は田面を軽く干す等の対応を行う
雑草対策	<ul style="list-style-type: none">■ あぜ塗り等の漏水対策を行い、均平に留意して代かきを精度良く仕上げる■ 除草剤を使用する場合は、散布後7日間は止水を守り、落水やかけ流しは行わない。

令和6年産「きらみずき」栽培研修会について

「きらみずき」の栽培予定者を対象に、品種特性を活かした栽培技術等に関する研修会を実施します。

日程と会場

- ① 令和6年2月14日（水） 10:00～11:30
滋賀県立男女共同参画センター 大ホール
(近江八幡市鷹飼町80-4)
- ② 令和6年2月16日（金） 14:00～15:30
守山市民ホール 小ホール
(守山市三宅町125)

研修内容

- 生産・流通方針
- 栽培管理のポイント（栽培暦）

